



SHOUTOU-GAKUSYU

公益財団法人
佐賀育英会 松濤学舎

松濤だより 第24号



松濤学舎 HP

令和8年2月28日発行

社会をささえる立場たれ！ ―令和7年度退舎式―

2月7日17時より学舎食堂ホールにて6名（男5・女1）の退舎生（卒寮生）を囲み、12名の来賓ご列席のもと、森田麗翔さん（2年）の進行により盛大に退舎式を執り行いました。



式ではまず、大坪信剛理事長から札幌出張時に感じた島義勇の活躍を引き合いに「島は鍋島直正の命を受け過酷な、しかし意味のある北海道開拓を任された。その偉業は150年経た今も北海道民から顕彰されている。才覚ある島の活躍はもちろん、それを見出した直正公との関係に注目したい」と社会に出てからも良き先輩に恵まれる人であってほしい、時代を見とおした人材であってほしいとエールを送られました。



舎生からは、川副太郎寮長が在舎生を代表して松濤魂で活躍の期待を述べ、それに対し宮崎優太前寮長が「人前に出ることが得意ではなかった自分がここまで来ることができたのはみんなのおかげ。つながりを大切に」と答えました。その他、たくさんの方々からお祝いのメッセージをいただきました。概要は次のとおりです。

城島栄一郎評議員会議長

- ① 自分を信じ、夢・目標に向かってチャレンジせよ。たとえ失敗してもそれが次の礎となる。
- ② グローバル社会。視野を広げよ。独善に陥るな。いろいろな知識を身につけよ。
- ③ 体力をつけ健康を維持せよ。健康がすべての源である。

伊藤聖治舎友会会長（丸紅（株））

舎友会はいわばアムルの町（RPG ファイナルファンタジー3 に設定された重要な町）。クローズな世界だが、中に住む者にとって



は真水のような場所だ。そこにはたくさんの人脈とたくさんの情報がある。きっと助けてくれる誰かがいるし何かがある。仲間を大切に。

中村^{さとし}哲^{さとし}常務理事

俳人・鷹羽狩行に「卒業やそれぞれ風の中に散り」という句がある。4 年前、期せず集まった皆さんは今まさにここから離れていく。散りぢりなっては行くが、ここに集まって得たものをこれからずっと大切にしてほしい。

古賀^{だいぞう}大三^{だいぞう}理事（株式会社サガテレビ東京支社長）

佐賀には全国ツアーが開催できるアリーナができるなど、人の流れ、地元の価値が確実に変わってきた。皆さんもそれぞれの道に進まれるが、必ずステップアップや人生の転機がある。そこを乗り越え人間的成長を遂げてほしい。

百武^{たかひろ}敬洋^{たかひろ}理事・舎友会事務局長（百武システムコンサルティング）

最も自由な土日の 48 時間をどう使うか。それをうまく使った人が大きな変容を遂げる。土曜の朝をどう使うか。無為な時間にしない。ジムに行くもよし。資格試験の勉強に充てるもよし。すると金曜の夜の使い方が問題になる。残業して土曜の朝をつぶすことはしないほうがいい。長い目で見た時におそらくこの 48 時間の使い方がカギになる。

古賀^{たかひろ}千鶴^{たかひろ}理事（三菱製紙株式会社研究開発企画部長）

連綿と続く松濤山脈。今は楽しかった思い出だけが沸き上がってくるだろうが、ここで得た人と人とのつながりが 40 代、50 代になって想像以上に生きてくる。皆さんの健康とこれからの人生での活躍を祈っている。



こうして多くのご来賓の方から激励の言葉を頂戴するとともに、退舎生・在舎生それぞれのパフォーマンスの交歓に会場は笑いと歓声に包まれ、温かく 4 年生を送る会となりました。

一つ屋根の下、寝食をともにし、先輩と後輩とが確固たる絆を築き、充実した学生生活だったことでしょう。卒寮生のこれからの人生が健康で幸せであることを祈っています。



舎生の絆深まる！ – 山梨方面への 1 泊 2 日寮祭旅行 –



9 月 9 日、10 日の 2 日間、31 名の舎生が松濤学舎伝統行事の一つである寮祭（舎生旅行）に出かけました。行程や宿泊、貸し切りバスの手配等、全て自分たちの手で進めました。当日朝はフードスタッフの浦口さんがこしらえてくださったおにぎりを持っての出発でした。

なお、大学の研究やのっぴきならない事情でやむなく参加できなかった舎生には申し訳ありませんでした。来年は全員が参加できることを期待しています！



保護者会・育英会からも資金的な補助をいただき、ありがとうございました。お陰様で充実した2日間だったようです。

寮祭を終えて 1年 倉本一牙

松濤学舎に入ってからずっと気になっていた行事がやってきました。それは寮祭です。去年の寮祭の写真が松濤学舎のInstagramに投稿されていて、その賑やかな写真に私はワクワクしていました。

ついに始まった寮祭、一日目は山梨県の忍野八海の散策と山中湖付近の素晴らしい旅館でのバーベキューでした。忍野八海では八か所の池があり、それぞれが特徴をもっており飽きることなく楽しむことができました。またほうとうやイワナの塩焼きなど山梨や忍野八海ならではの食べ物も充実していて、すごく美味しかったです。旅館でのバーベキューでは先輩や友人と一緒に食卓を囲み、自然と会話が弾んだことが特に印象に残っています。近くの体育館では卓球もできて、先輩後輩関係なしに本気の勝負で盛り上がり、普段見られない一面も知ることができました。一日目は、忍野八海の澄んだ水や山中湖の爽やかな空気とともに、仲間との距離がぐっと近づいたように感じました。



二日目は富士急ハイランドに行きました。私は絶叫系があまり得意ではなく、絶叫日本一と言っても過言ではない富士急ハイランドに行く前は少し緊張していました。しかし、いざ行ってみると体育会系で脳筋の先輩たちが



パッションを注入してくださり、ジェットコースターにも乗ることができて良かったです。アトラクションの待ち時間には班のみんなとミニゲームをして遊んでいたのも、暇な時間なんて無くずっと楽しかったです。

全ての行事が終わり寮まで帰るバスに乗った時には、本当に二日間があったという間で終わり余韻に浸りながらも、後は帰るだけなのかと少し寂しく感じていました。ところがバスの中である先輩が突然パフォーマンスを披露したり自慢の美声で歌を歌ってくださったり、最後の最後まで大盛り上がりでした。おかげで寮祭は最初から最後まで楽しくて忘れられない思い出になりました。

この寮祭を通じてこれからの寮生活がもっと楽しみになりました。計画してくださった先輩方ありがとうございました！



正解を探すのではなく自分が選んだ道を正解にーある文化人類学者の言葉ー

令和7年11月13日、平成13年に始まり、今回で28回目を迎える舎内講演会を開催しました。講師は代々、佐賀にゆかりのある方々をお願いしています。大坪理事長にもご出席いただきました。

今回は佐賀西高・東大出身で今を時めく大川内直子氏（ideafund 社長）に「アイデア資本主義の時代に羽ばたくためのキャリア論」と題してお話いただきました。

文化人類学の手法を実社会に生かすビジネスを立ち上げられ、著述はもちろん、新聞やテレビ、ラジオにも登場される方で、発想の柔軟さと決断の鮮やかさに舎生は大きな刺激を受けました。

アイデア資本主義の概要と実例、ご自身の高校時代から今に至るまでの逡巡をお示しになりながら、「正解を探すな、自分が選んだ道を正解にすることを考えよ」と締めくくられました。



舎生からはたくさんの質問、というより、相談に近い発言が次々にあがり、氏の講演の影響の大きさを物語っていました。

圧倒的な行動力と人生のフェーズ 1年 山田睦美

先日は、同郷の先輩である大川内直子さんによる貴重なお話を伺う機会をいただき、とても良い機会になりました。文化人類学という専門知を武器に、ビジネスの世界で起業し、第一線で活躍されている氏のキャリアは、現在大学で学ぶ私にとって非常に新鮮で、今後の指針となる多くの示唆に富んだものでした。

今回の講演を通して最も強く印象に残ったのは、大川内さんのこれまでの歩みを支えてきた圧倒的な「行動力」です。学部から修士課程へと進み、学問を深める一方で、その知見を社会でどう活かすかを常に考え、起業など実践に移されてきた姿勢に深い感銘を受けました。特にお話を伺っていて驚かされたのは、現在は三児の親としての生活を送りながら、経営者として多忙な日々を両立されているという点です。日々の大学生活や課題に追われるだけでも精一杯になりがちな自分にとって、大川内さんのバイタリティは想像を絶するものでした。しかし、それは決して特別なことではなく、目の前のことに対して好奇心を持ち、まずは動いてみるという積み重ねの結果なのだと気づかされました。「よくこれだけのことができるな」という純粋な驚きは、次第に「自分ももっと動けるはずだ」という前向きな刺激へと変わっていきました。

また、キャリア形成におけるアドバイスとして語られた「人生の選択肢を広げるフェーズと、絞るフェーズを意識すべき」という言葉は、現在の私の葛藤を見透かされたような、非常に重みのあるものでした。私自身、これまでの学生生活や受験において、常に「自分の可能性を広げること」を意識して選択をしてきました。しかし、大学に入り、あまりに広大な知識や選択肢を前にして、最近では「広げ続けること」への限界を感じ始めていたのも事実です。どれだけ広げても上には上があり、自分の無力さに直面しては、かつて持っていた意欲が少しずつ削り取られていくような感覚を抱いていました。

そんな中、大川内さんが示してくださった「絞るフェーズ」という視点は、私にとって大きな救いとなりました。これまでは「広げられないこと＝停滞」だとネガティブに捉えていましたが、人生には戦略的に選択肢を絞り込み、一つの道を深掘りする時期が必要なのだと理解できたからです。闇雲に広げ続けることへの焦りから解放され、今持っているカードをどう整理し、将来どのタイミングで「絞る」べきなのか。そうした長期的な戦略を持つことの重要性を教わりました。

文化人類学という手法を用いて、目に見えない人々の営みを分析し、社会に価値を提供する。その鮮やかな仕事のあり方は、人文学を学ぶ意義を再確認させてくれるものでありました。私も大



川内さんのように、自分の専門性や興味を社会とどう接続していくかを常に問い続けたいと思います。

最後になりますが、同郷の先輩として体温のある言葉でアドバイスをくださった大川内さんに、改めて感謝申し上げます。今回学んだ「まず動くこと」の重要性と、今は「広げるフェーズ」であるという自覚を胸に、これからの大学生活において恐れずに多様な経験を積み重ねていきたいと考えています。

自己分析は人生を生き抜くスキルだ ―就活のための社会勉強会―

令和 7 年 9 月 14 日、舎友会の方々の全面的なバックアップによる「就職活動のための社会勉強会」を開催しました。



この会はすでに 15 年余りもその歴史を積み重ねてきた、松濤学舎の強みを如実に物語る伝統あるイベントです。

今年は、他寮からの大学生、舎生の知り合いの大学生、そして佐賀県からの高校生の参加もあり、あらたなステージに入ったと言えます。

エントリーシートの公開添削、基調講演の後、17 の業界情報のコマを設定、総勢 34 名の講師の方々をお迎えし、就職活動に向けて今準備すべきことや、業界の最新動向・自社紹介など、実際の・実践的で刺激的なアドバイスや情報をいただきました。

キーワードは「自己分析」。行動して周囲の人からのフィードバックをたくさん受けながら自分を知ることが大切であることを学びました。

そして、目標（WILL）を持つこと。しかし今はまだ目標（WILL）がなくとも、今の自分にできること、得意なこと（CAN）に取り組むこと。出来ること・得意なこと（CAN）がないなら、

今、目の前にあるしなければならないこと（MUST）に誠実に取り組むこと。その積み重ねが自分を知ることであり、自分を作ることなのです。

参加者は目を輝かせて聴いていました。

このイベントは新聞、テレビで取り上げていただいています！ まさに松濤学舎の面目躍如です。



最初の一步を踏みとどまる

11月2日、警視庁第八方面本部の井関啓介警部と小金井警察署の小野豊警部補をお招きし、防犯講座を開きました。

主に「闇バイト」と「薬物乱用」について事例を踏まえ、具体的なリスクや対策について学びました。

こうした問題にはネット社会や貧困問題、若者の気質など様々な社会的な背景が横たわっています。

このような「今そこにある危機」に対しては「これって危ないんじゃない？」という直感的な違和感を大切にし、最初の一步を踏みとどまる勇気が大事です。

肉、肉、時々野菜！

防犯講座の後には、自治会主催によるバーベキュー会！

秋学期スタートから一か月。大学祭もたけなわ。講義・演習はこれからが本番。

まずは英気を養おう！ 学生時代は元気が一番。



ピザ釜登場



12月21日、日曜日。今日のお昼はピザパーティー！

アレックス先生の自宅のピザ釜をお借りして寮の中庭で焼きました。

今回は高岡市荻布寮の寮長さまと学生さんをお迎えし14名の会。

オリジナルなトッピングで生地を自分で焼き上げる感動！

これがおいしいのです！ やはり体験で学ぶことは多いと実感しました。

アレックス先生、ありがとうございました！

Merry Christmas! & Happy New Year!



次郎、大きな河を渡る。桑に食で『糰』を煮で糰を。年に束が備えた糰『染』を係る。『染』は、糰が糰を躍た浴。『染』の染の地(糰)で筆さ。特に第は糰で開を、並。は糰の糰や糰で糰ね。シーンも多。あ、糰を持つ。親と子の心。糰に里を。過だ。を乗り越え、自由。染(糰)が形に生き抜く強い根を見た気。

